

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025年5月30日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2025年5月16日
明治大学卒業予定年月	2028年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	ノーザン州立大学(日本語名) Northern State University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2024年8月～2025年5月
留学先大学で在籍した学年	2年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:  <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4月上旬～7月下旬 2 学期: 9月中旬～2月上旬	1 学期: 8月下旬～12月中旬 2 学期: 1月中旬～5月上旬 3 学期: 4 学期:
学生数	約 3500 人
創立年	1901 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (ドル) (1 現地通貨 = 150 円)	B 日本円	備考
授業料	0	円	交換留学なので授業料はかかりません
宿舍費	6000	円	GPE
食費	4000	円	学内の学食や学外のレストランなど
図書費	70	円	教科書代
学用品費	500	円	美術やデザインの授業など
携帯・インターネット費	110	円	
現地交通費		0 円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		50000 円	
旅費(留学中)		700000 円	冬休み、春休み、留学終了後に旅行しました。
被服費		50000 円	
医療費		0 円	
保険費		100000 円	形態：明治大学の海外留学保険
渡航旅費		200000 円	
ビザ申請費		50000 円	
雑費		100000 円	日用品費など
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	10680 (=1550000 円)	1250000 円	
総計(A+B) ※円		2800000 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。



## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: \_\_\_\_\_ )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: \_\_\_\_\_ )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

アバディーンはとても安全な町でほとんど危険にさらされたことはありませんでした。たまに町で事件があるとメールで情報が送られてきます。盗難もほぼありませんが、共有冷蔵庫に入れている物に名前を書いておくこと間違っていると聞かれます。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

学校内のWi-Fiは不自由なく使えました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

日本の銀行口座と繋がっているデビットカードやクレジットカードを使用しました。現金は校内のATMから20ドルずつ引き出せました。口座を開設したい人は、学期初めに情報が送られてくるのでその時に開設できます。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

ふりかけ、お茶漬けのもと、出汁、お味噌汁やスープなど、コンタクト、スキンケア類

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
30 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Drawing1	ドローイング 1
科目設置学部・研究科	ART111
履修期間	2024 fall
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 165 分が 2 回
担当教授	Jay Hopkins
授業内容	絵の描き方について教えてもらえる授業です。様々な画材を使ったり、描き方を通じて色々な表現方法を学びます。
試験・課題等	試験はありませんが、技法を習うとその最終課題が出されます(全 5 回くらい)。また、それとは別で中間と期末にも多めの課題が出され、夜中まで友達と絵を描き続けることもありました。
感想を自由記入	とても少人数のクラスで、朝早くからのクラスだったので一人一人のことは見てくれて、のびのびとした空気感だった。教授もとても優しく、教授や友達と色々なこととお話ししながら絵を描けた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Design 1 2D	デザイン 1 2D
科目設置学部・研究科	ART121
履修期間	2024 fall
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が3回
担当教授	Tim Rickett
授業内容	コラージュや切り絵、絵の具などを使っていろいろなデザインを考えたり、アーティストや美術用語について学びます。毎回テーマや使う画材が決まっており、それに沿って作品を作ります。
試験・課題等	授業内に作品制作が終わらない場合は、各自時間を取って提出日までに完成させます。また、毎日ひとつデザインを考える課題があり、たまってしまくと大変でした。中間と期末に美術用語についてのテストがありました。
感想を自由記入	作品制作が終わらないと夜まで美術室にこもったり、寮に持ち帰って制作をするので大変でした。でも、教授は優しく、分からないことは分かるまで教えてくれますし、進捗状況を気にかけてくれたり制作中にアドバイスをくれます。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
United States History 2	アメリカ史 2
科目設置学部・研究科	HIST152
履修期間	2024 fall
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に50分が3回
担当教授	Dr. Rick Dias
授業内容	南北戦争以降のアメリカ史についての授業です。
試験・課題等	中間と期末に試験があります。事前に出題される問題は提示されますが、提示されたものから何が出るかは分からないということ、エッセイ式なので事前の対策がポイントだと思います。また、課題図書についてのレポートを書く課題がありました。
感想を自由記入	優しく、面白い教授で人気の授業です。試験前にはチューターの方がまとめの授業をしてくれます。教授はホストファミリーの一人でもあり、教授の家に留学生を呼んで一緒に夕食を作ったり、サンクスギビングの時にはターキーを振舞っていただきました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Marching Band	マーチングバンド
科目設置学部・研究科	MUEN120
履修期間	2024 fall First 8 weeks
単位数	1
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実演(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 90 分が 4 回
担当教授	Dr. Travis Netzer
授業内容	フットボールの試合での演奏、ホームカミングデーでのパレードに向けてマーチングバンドの練習をします。留学生は基本的にシンバルの演奏です。
試験・課題等	特にないですが、楽譜を覚えなければいけないので授業外の時間に友達と練習しました。
感想を自由記入	日本では体験できない新しい経験でした。学期の途中で 2 日間のツアーがあり、サウスダコタ州の中の小・中・高校などで演奏しました。学校で行われるフットボールの試合で演奏するので土曜日は無くなるが多かったのですが、楽しく、良い思い出になります。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to Sociology	社会学入門
科目設置学部・研究科	SOC100
履修期間	2024 fall
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回
担当教授	Dr. Pamela Monaghan-Geernaert
授業内容	社会がどのように作られているのかや、様々な社会問題について学びます。
試験・課題等	中間と期末にテストがありますが、各自が時間のある時に調べながらできるので簡単です。また、レポートを書く課題が数回ありました。
感想を自由記入	教授は優しく、質問に丁寧に答えて下さいます。社会学について貧困問題やジェンダー、人間関係などの様々な観点から学べて、日本では気が付きにくい課題にも触れて比較することができる内容でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to Acting	演技入門
科目設置学部・研究科	THEA131
履修期間	2024 fall
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Kane Anderson
授業内容	身体を自由に動かしたり、短い台本に沿って演技をしたりすることで表現力を学びます。
試験・課題等	学内の演劇を鑑賞してレポートを書く課題、小テストが数回ありました。また、ペアで台本に沿って演技をするものが2回あり、それが評価対象でした。
感想を自由記入	先生は日本への留学経験もあり、留学生に理解のある方でした。小テストも、授業終了後に留学生には別で解説してくださいました。少人数のクラスで他の受講者とコミュニケーションがとりやすい環境で、学期の最後には先生と授業で出会った友人を招き、一緒に受講していた明治の友人と日本食パーティーを行いました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Three Dimensional Design	3次元デザイン
科目設置学部・研究科	ART123
履修期間	2025 spring
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が3回
担当教授	Tim Rickett
授業内容	紙や段ボール、マッチ棒などを使って様々なデザインを考えて作品を作ったり、アーティストや美術用語について学びます。毎回使う画材が決まっており、その画材を使って作品を作ります。作品提出の後はみんなで講評をします。
試験・課題等	授業内に作品制作が終わらない場合は、各自時間を取って提出日までに完成させます。試験はありませんでした。
感想を自由記入	立体の作品を作るので、個人で行うのには難しい作品制作を行うことができました。授業内で作品制作の時間はありますが、割とタイトなので授業外の時間も使って作品制作を進めることが多かったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to Digital Media	デジタルメディア入門
科目設置学部・研究科	ARTD113
履修期間	2025 spring
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が3回
担当教授	Jason Knowles
授業内容	様々なアプリや AI を使ってグラフィックデザイン、音響、映像などのデジタルを使ったモノづくりを通してデジタルメディアの基礎を浅く広く学ぶ授業です。
試験・課題等	毎授業の前に予習として各自ビデオを見て、小テストに答えるという課題がありました。また、それぞれのタームで作品提出があります。
感想を自由記入	デジタルについての知識が乏しかったので、この授業を通して様々なアプリがあることやパソコンを使ってできることが学べたことは良かったです。一方で、先生の使う専門用語やアプリの使い方の説明、質問についての応答はスピードが速く一度での理解は難しかったですが、めげずに質問し続け、何とか最後まで走りきることができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Intro to Linguistics	言語学入門
科目設置学部・研究科	LING403
履修期間	2025 spring
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Dr. Tetiana White
授業内容	音声学、意味論など言語学の全体を浅く広く学ぶ授業です。
試験・課題等	2~3週間に1度ほど中テストほどのクイズに答える課題があった。また、学期末にありました。また、学期末に20分程度のプレゼンを行うことが最終課題でした。
感想を自由記入	少人数のクラスのうち、半分が日本人でした。また中国からの留学生が一人、教授自身もウクライナ出身の方だったので、様々な言語に触れながら言語について学ぶことができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Concert Choir	コンサート合唱
科目設置学部・研究科	MUEN100
履修期間	2025 spring
単位数	0
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実演(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 50 分が 3 回
担当教授	Dr. Timothy Woods
授業内容	合唱をします。ゴスペルや男声合唱、女声合唱などを歌いました。
試験・課題等	試験や課題などはないですが、学期末にコンサートがあります。
感想を自由記入	受講者の多い授業です。生徒、教授含めて皆仲が良く、和気あいあいとした雰囲気です。声楽専攻の生徒が多く、皆歌が上手いことに加え、現地の生徒の歌声はとても大きく、パワフルで、活気に満ちています。コンサート本番はとても感動しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Symphonic Band	シンフォニックバンド
科目設置学部・研究科	MUEN121
履修期間	2025 spring
単位数	0
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実演(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が 3 回
担当教授	Dr. Audrey Miller
授業内容	日本で言う吹奏楽形式で、皆で合奏をします。
試験・課題等	試験や課題はありませんが、この授業の受講にはオーディションがあります。年に 3 回コンサートがあります。かなり難しい曲もあったので自主練を重ねました。
感想を自由記入	音楽専攻の生徒が多く、新譜を配られて一発目の演奏でも皆演奏できてしまうので圧倒されました。2 月に 4 日間のツアーがあり、そこで他の生徒と特に仲を深めることができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Concert Band	コンサートバンド
科目設置学部・研究科	MUEN121
履修期間	2025 spring
単位数	0
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実演(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 120 分が 1 回
担当教授	Dr. Travis Netzer
授業内容	日本で言う吹奏楽形式で、皆で合奏をします。
試験・課題等	試験や課題はありません。秋・春の学期末にコンサートがあります。
感想を自由記入	学内の生徒だけではなく、町の人や卒業生も一緒に参加し合奏できる環境で、様々な年代の人がいます。とても新鮮でした。教授は面白い方で、目が合うといつでもどこでも微笑んでくれます。和気あいあいとした雰囲気でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Applied Music-Keyboard	ピアノ
科目設置学部・研究科	MUAP110,111
履修期間	2024 fall-2025 spring
単位数	1
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	マンツーマン(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 30 分が 1 回
担当教授	Dr. Marcela Faflak
授業内容	ピアノの個人レッスンです。
試験・課題等	毎週レッスンがあるので個人練習をします。秋・春の学期末にテストがありました。
感想を自由記入	毎週個人レッスンがあるだけではなく、生徒同士の聴き合いの会や、小さな発表会的なもの、高校生の合唱の音取り、運良くピアニストや他の外部の方々からの特別レッスンなどを受ける機会があり、とても貴重な経験でした。また、学校に音楽の授業があることで広がる経験の幅をととても実感しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Applied Music-Woodwinds	木管楽器
科目設置学部・研究科	MUAP120, 121
履修期間	2024 fall-2025 spring
単位数	1
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	マンツーマン(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に30分が1回
担当教授	Fritz Hemke
授業内容	木管楽器の個人レッスンです。私はフルートを選びました。
試験・課題等	毎週レッスンがあるので個人練習をします。テストがある生徒もいましたが、私の場合はありませんでした。
感想を自由記入	完全に初心者で始めたフルートですが、簡単な曲であれば吹けるようになりました。個人レッスンだけではなく、生徒同士の聴き合いの会もあり、そこでは他のフルート奏者やサクソ奏者の演奏を聴き合い、良い刺激になりました。初心者であるにも関わらず、運よく他のフルート奏者と一緒にフルーティストの方からの特別レッスンを受けることができ、とても良い経験になりました。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。  
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)  
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。  
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。  
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	TOEFL の勉強を開始
	8月～9月	
	10月～12月	TOEFL 受験、留学応募
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	予防接種、ビザ、航空券取得など
	8月～9月	留学開始
	10月～12月	秋学期、冬休み
留学/帰国年	1月～3月	冬休み、春学期
	4月～7月	春学期、帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留學生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

興味のあった分野が学べそうだということからアメリカ、そしてノーザン州立大学を留学希望校に上げました。留学期間は、ゼミへの入室が3年の秋からになってしまうことが少し懸念ではありましたが、一方で主に懸念はそれだけだったことと、相談した教授や母に留学するなら半年よりも一年の滞在を勧められたので、一年の滞在にしました。実際に一年間滞在し、私もその選択は本当に正解だったと思います。特に私の場合は2学期目により人間関係が広がったり、現地の友人とさらに仲を深められたので、もし選べる状況であれば一年間の選択をお勧めします。

なんとなく在学中に留学するかなとは思っていたものの、私にとって今回の留学が人生で初めての海外経験だったこともあり、初めての海外で一年間滞在するという事に期待もありましたが、それよりも不安や緊張の方が大きく、留学に行くかどうか書類の提出を、提出締め切りの本当に2~3分前まで悩むほどでした。自分が外国に行くという現実味がなく、また留学の不安から現実逃避、後回し癖からTOEFLの受験や学校調べ、書類の作成がぎりぎりになってしまいました。結局私はこの学校に留学できて一番の選択だったと感じられていますし、次に留学するときもこの学校を選びたいと思うほど楽しく価値ある一年を過ごすことができましたが、学内の情報だけではなく、休日や祝日は授業がないため、そのような時間をどのように過ごしたいか学校の周りの環境についても調べた方がよいと思います。私は学校周りの情報を十分に調べておらず、現地に行ってから思ったよりも田舎の町であるなど思いました。ノーザン州立大学があるアバディーンという町には野生の動物や緑があり、町の外に出ると広大な大地と地平線が見えるような、時間がゆったり流れているような雰囲気です。天気の良い日には友達と学校周りを散歩したり、日向ぼっこをしたりしました。マイペースで自然が好きで私にはこの環境はとても合っていました。一方でエンターテインメント系の施設はほとんどなく、休日は外に出かけてアクティブに過ごしたいという人は少し物足りないなど思ってしまうかもしれません。小さな町であることも関係しているのか、人々のコミュニティが強く、学生や教授方、町の人々はとても優しく、様々な場面で手を差し伸べてくれました。また、観光地ではなく、旅行先としては選ばないような土地なので、その土地に住むという形だからこそ見られた、アメリカの田舎町の家や教会、町の景色であったことも結果ここに留学して良かったと思う理由の一つです。

また、メインのスーパーやレストランなどに出かけるのには車がほぼ必須になるので、車に乗せてくれる現地の友人と仲良くなれると安心です。ホストファミリー制度もありますが、私のホストファミリーは町の外の、学校からは少し離れた所に住んでいたため、学内の寮に住んでいる友人にスーパーに連れて行ってもらうことの方が多かったです。ホストファミリーについて少し書くと、渡航してから数週間するとホストファミリー希望についてのフォームが送られてきます。動物を飼っている家庭、小さな子どもがいる家庭、教会に行く家庭などその形は様々です。私はホストファミリーにラッシュモア山に連れて行ってもらうことができましたが、小さな子どもがいる家庭は、遠出をしたり、自宅に泊まらせてもらうのが少し難しいかなという印象でした。一方で、そのような家庭では季節のイベントを皆で思い切り楽しむという印象でした。

現地に到着し、秋学期の授業が始まる前に同じ時期に来た留学生を対象としたオリエンテーションが一週間あり、そこで日本や、他の国から来た留学生と仲良くなりました。また、同じ時期に来た留学生ではなくても、留学生という共通点からその後も留学生同士で仲良くなりやすいと思います。到着して初めの方は特に手続きや料金の支払い、履修についてなど重要なタスクが多々あり、日本人同士で助け合えたことはとても心強かったです。現地の友人に関しては、ルームメイトや同じ寮の同じ階に部屋がある友達、留学生に興味を持っている友人から始まり、授業が始まると同じ授業を受講している生徒と仲良くなっていきました。私もそうでしたが、時間が経つにつれてそれぞれの生活時間が確立されていくので、ルームメイトよりも、同じ授業を受講していたり他での活動で時間を共有している人の方が、その後も仲良くなる人が多いのかなという印象でした。

大変だったことについては、現地に到着してから授業が始まるまでの一週間強の間は学食が開いていなかったことです。最初の週間はスーパーに連れて行ってもらった際や自分たちで歩いていけそうなレストランを探しての食糧調達が必要です。また、オリエンテーション中の食事も思っていたのとは違って心配しましたが、学食が開けば、そこではビュッフェ形式で自分の好きなものを食べることができます。他には秋学期の始めの授業料支払いの際に担当者から送られてきた請求金額がかなり大きな額間違っていたことは一大事件でした。同じ明治の人たちで明治の留学担当の方とメールのやり取りをしたり、現地の担当者に事情を説明しに行ったことで解決できましたが、その際に、与えられた情報は自分たちでも新しい目で確認することの重要性を実感しました。留学担当者の方はとても優しく親身に話を聞いてくれますが、その後の手続きや状況把握においてもその過程でとても時間がかかったり、正確に行われているか心配になることがあったので、事務所に直接訪ねて状況を逐一確認することをお勧めします。また、冬は-30°Cになることもあり、とても寒いのでヒートテックは必須、他にもタイツや、防寒ジャケットはフード付きがあると安心です。私は現地で冬用のジャケットとブーツを購入しました。一方で渡航直後の夏はしっかり暑いので、夏服も必須です。夏は蚊が多く、日本の蚊よりも気持ち大きくて存在感がありましたし、かゆみも少し強めでした。他には、11月下旬のサンクス

ギビング休暇、冬休み、3月中旬の春休みは寮代が別途かかります。旅行に行ったり、ホストファミリーや友達の家に行く人が多いです。

結果、私はこの大学に留学をしたことで想像以上の体験と多くの優しい人々に支えられ、何物にも変えられない一年を過ごすことができました。現地の学生が一瞬で終わるような課題にもとても時間がかかったり、一人で飛び込んだ現地の学生のコミュニティにスムーズに馴染めず諦めそうになったこともありましたが、そのような経験を乗り越えて彼らを大切な友人と呼び、彼らとより多くの時間を過ごすようになったこと、教授や友人に聞きながらもなんとか最後までやりきることができたことで、今までは感じなかった確かな自信を得ることができたと実感しています。渡航前はあれだけ留学するかを迷い、加えて第一希望ではなかった学校ですが、今ではノーザンに留学しなかった一年を考えられませんし、また初めて降り立った海外の土地がここで良かったなと心から思います。現地の友人、他の国からの留学生、日本人ともに良い友人に恵まれ、帰国後も連絡を取り合っています。とても充実した幸せな一年間でした。